

地図を楽しくするコツ

—地図指導が苦手な先生へ—

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治

1. 地図活用の苦手の連鎖

授業で地図を活用するのが苦手だったり、いやだなあと感じたりする先生方に思い出してもらいたいことがあります。あなたが小学生のときに教わった先生は地図帳を楽しく使っていましたか？ 教える先生が楽しく地図帳を活用すれば、児童も前向きに地図を活用できると思います。反対に、いやいや地図帳を開かせたり、地図作業に取り組ませたりすると、児童も地図は嫌だとか苦手だという意識が生まれ、「地図活用の苦手の連鎖」が発生してしまいます。この連鎖を断ち切ることができるのは、子どもたちの前にいる先生方だけです。

2. 地図のスケールと学習活動

地図指導の苦手な先生は、あらゆるスケールの地図を「地図」といって、同一のものとして扱おうとするような気がします。身近なスケールの地図と日本地図、世界地図では読み取れることや作業内容が異なります。

ここでは、『楽しく学ぶ小学生の地図帳最新版』（以下、地図帳）や身近な地域の地図を使った、児童の地図活用能力の基礎を培うために必ず取り組んでほしい学習活動を四つあげます。どれも気軽にできるものですので、ぜひ授業の流れのなかに取り入れてみていただきたいと思います。

■身近な地域の地図の例

身近な地域の地図で重要なのは、地図と自分が日ごろ目にするものを対照させて把握す

ることです。教室から見える風景と地図を対照させ、自分のいる位置を知る活動をするだけでも、この縮尺の地図の役割が理解できます。さらに地図をもって歩くことで、目的地にたどり着くために利用できることもわかります。

先生方も学区を表した地図をもって歩くと、新たな発見があると思います。身近な地域の学習では、先生も子どもと同じような活動を一度、行うとよいと思います。

■日本地図の例①—地図帳の索引の利用

地図帳に掲載されているような日本全体やある地方全体の地図であれば、机上の作業を通じて地図を理解してもらおうとよいです。

ニュースに出てきた地名などを索引で探すのはおもしろい活動です。例えば、2015年3月に北陸新幹線が長野から金沢まで延伸されます。まず、「金沢ってどこだろう」と索引を引かせてみてください。「**かなざわ 金沢 [石川] ……31イ4**」と、地図帳のページ数と、地名の掲載されている位置が示されています。しかし、これは児童にとって呪文のようにしか見えません（図1）。p.31の東西方向では**イ**、南北方向では**4**の交差する場所に金沢があるということを教えてください（図2）。時間割表の見方などにたとえたり、数回練習したりして、定着をはかるとよいでしょう。

索引の活用に時間をかければ、地図帳を開いて気になる地名を自分で調べることができるようになります。教師の役割は、児童が自

分で学習できるスキルをはぐくむことにあり、索引で地名を検索するのはそれにあたります。

| | |
|-----------------------|----------|
| ◎かとり 香取 [千葉] …………… | 36 オ〜カ 6 |
| かながわけん 神奈川県 …………… | 36 ウ 7 |
| ◎かなざわ 金沢 [石川] …………… | 31 イ 4 |
| ○かなん 河南 [大阪] …………… | 30 カ 4 |
| ●かなん 河南 (→石巻) [宮城] …… | 46 オ 7 |
| ◎かに 可児 [岐阜] …………… | 32 ウ 7 |
| ○かにえ 蟹江 [愛知] …………… | 32 イ 7 |

図1 索引を引く

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.77



図2 金沢の位置を確認

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.31①中部地方

■日本地図の例②—指でたどる

先ほど、北陸新幹線の例を出しましたが、新幹線がどこを通るのか、指でたどることも大切な学習活動です。例えば、地図帳のp.31にある長野から、新幹線が開通する予定の経路が二重破線で示されています。これをたどっていくことで、北陸新幹線は長野から新潟県上越市を経て、富山県を通り、金沢市まで到達することが理解されます（図3）。



図3 北陸新幹線をたどる

『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.31

指でたどる活動には、情報がぎっしり詰まった地図上で、特定の要素に注目させる効果があります。地図上での距離感や都道府県的位置関係など、理解を深めるのに役立ちます。

■地図に印をつける

調べた場所に印をつけるのもよいと思います。地図帳をきれいに使いたいという児童もいるでしょうが、調べた場所やたどって気になった場所に印をつけることで、その位置の記憶が定着したり、日本を俯瞰するときの参照点（基準点）になったりします。そのような参照点をたくさんもつほうが、距離と方位が確かな日本像を形成できるでしょう。

3. 最初の時間を惜しまない

上記の学習活動はどれも多少時間のかかるものです。しかし、ほんの数回でも繰り返せば多くの児童の作業効率は上がり、おりにふれて指示するうちに、児童たちは先生が指示しなくてもこのような作業を自分でやるようになるでしょう。児童が地図活用スキルを身につけることで、自分の力で地理を学び、それぞれの力で日本像、世界像を形成していくことにつながるのです。時間がかかる、地図作業はあまり好きではないということで地図を活用しなかったり、地図帳を開かなかったりすると、児童は重要なスキルを身につけるチャンスをのがしてしまうかもしれません。地図帳をできるだけ開くように心がけましょう。